

第5回会議の主なご説明内容 (教育委員会・子育て応援課)

- ・町内の小学校、加悦中学校を除く2つの中学校は、昭和40年後半から50年代の建物で耐用年数が近づいている。
- ・その当時に比べ新しく必要な教室がたくさん増えている。
(PC教室、English Room、支援の状況ごとの教室等)
- ・市場小学校にそのまま再編するためには、長寿命化、増築が必要
- ・こども園についても、老朽化に加え、未満時の預かりを想定していない構造を改造してきたため、部屋数やスペース的に狭く、今の時代の保護者のニーズに合った建物ではない。
- ・加悦中学校と江陽中学校の統合のタイミングについては、議論されていない。
- ・文科省が示した新たな選択肢[※]についても、議論されていない。
※ 1～4年生までは現小学校に通い、5、6年生を統合する方式
- ・ところてん方式で、空いた学校を活用することもアイデアとしてある。

第5回会議の主な意見

- ・野田川庁舎を解体した跡地の活用も選択肢。
- ・全ての小学校が築43年、44年ばかりで、そこに手を入れ始めると、ほぼ新築に近いようなお金を投じなければならない。町が持っている土地を活用して小学校問題の一つの出口を考えていくことも論点の一つ。（機能の複合化含む）
- ・学校を建てるとなると相当の面積が必要であり、場所が限られてくる。
- ・実際に加悦小学校へ統合してみて、よかったという声が多数。
- ・少人数教育は重要ではあるけれども、社会性を身につける、いろんな人と友達ができるということが重要。ある程度の人数を確保しながら、一つの統合化されたものを作っていくという方向性が必要。
- ・子供にとっての学びの場はどうあるべきか、そこに施設というものが付いていく順で方針を固めていただくことが大事